

事例項目	02 個に関する指導 05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力
概要	授業中、教師の話に集中して聞けない生徒への対応
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・「注意力が散漫で、一つのことに集中できない」という特性があります。授業中、周囲に迷惑をかけることはないですが、教師の話を書き聞けない様子が見られました。学習意欲が低下してやる気が出ないのかもしれませんが、「注意力が散漫で、一つのことに集中できない」という特性かもしれません。欠席日数も増えています。適切な指導について検討したいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、当該生徒の授業観察 ・特別支援コーディネーター、授業担当者等とのケース会議（学習意欲の低下、発達障害との関連、実態把握と学習の仕方に関する指導）中学校の内容がどこまでできているかテスト等で把握をします。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該生徒の実態把握（中学生学習内容）をすると、数学で文字を含む式（中学2年生程度）の計算ができませんでした。Aさんに個別指導をしていると、正負の計算からつまづきがあることがわかりました。そこで、授業を補うために、Aさんにノートを1冊用意して、計算練習から始めました。必要な時には、放課後や休み時間を利用して「計算の仕組みを理解したら、あとは宿題」という形で、1日5題を目標に取り組みました。少しずつですが、Aさんは理解が深まることで、授業中も教師の顔を見て聞くようになりました。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が低下している生徒は、今までの学習習慣から苦手意識を持っていて「やっても自分にはわからない」「小学校の頃から算数は苦手だったから無理」など、理解することをあきらめてしまう傾向があります。このような場合は、「やればできる」という経験を、スモールステップで達成できるように手助けをしていく方法があります。そのためには、「どこで何がクリアできないために、諦めてしまうのか」を見つけていかなければなりません。 ・高等学校の先生は、数学の授業で下学年内容の習得に向けて指導を進めてくれた。その個別の関りがB君の学習意欲を高めることにつながったと思われます。これを機に先生との関係性も改善され欠席数も減ったことは彼の成長につながり、とてもよかったと思います。

まとめ
<p>生徒の困り感を早期に発見することが大切です。それに気づいたら、本人と相談し、対応策をとり、実践・見直していくことが重要になります。そして、「本人が小さなことでうまく対処できたらほめる」という姿勢で、継続して指導・支援しながらステップアップさせていくことが効果的です。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。